Ⅱ　「学びの変革」の“深化”

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について

人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものが劇的に変わる状況が生じており、学校・教育・学びの「アップデート」が必要となっている。

本県においては、令和元年度から「個別最適な学び」に関する調査研究を実施し、令和２年３月には、これからの学校や学びはどうあるべきかという視点に基づき、「個別最適な学び」の実現に必要な観点などについて、「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」（以下「提案」という。）として整理した。さらに、令和２年度から２年間、「個別最適な学び」に関する実証研究として、県内４地域の指定校において各学校の教育目標の実現に向け、子供たちの実態（学習進度や能力、関心等）に応じた多様な学びの選択肢の提供と自己決定場面の設定を意識した教育活動に取り組み、令和４年度からその実践を県内へ普及するため、教職員研修等を実施し、推進を図っている。

１　「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて

（１）「個別最適な学び」が求められる背景

本県では、グローバル化する21世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデルの構築を目指して、「広島版『学びの変革』アクション・プラン（平成 26 年 12 月）」に基づき、各学校において、全ての児童生徒の主体的な学びを促す教育活動に取り組んできた。これまでの各学校の取組によって、令和２年３月時点では、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」児童生徒の割合が増加し、学習の仕方が改善されているなどの成果が見られている。一方で、「広島県『基礎・基本』定着状況調査（児童生徒質問紙調査）」の結果によると、「主体的な学び」に向かっていない児童生徒が１割程度みられ、さらに、主体的な学びの定着度合い（＝課題発見・解決学習に関する質問項目に対する肯定的な回答数）の減少に連動して、自己肯定感や学ぶ楽しさ・できる喜びが低下している状況がみられており、様々な要因から授業に参加できていない、あるいは、意欲的に学習できていない児童生徒がいることから、一斉指導を前提としたカリキュラムだけでは主体的に学ぶことが難しい児童生徒がいると捉えている。

学習指導要領（平成 29 年告示）の総則「第４　児童（生徒）の発達への支援」においても、「児童（生徒）が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童（生徒）や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応

じた学習、児童（生徒）の興味・関心に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れること（中略）」と「個に応じた指導」の充実を図ることが示されている。

また、令和３年１月に中央教育審議会から答申された「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」においても、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となっている中、子供たちを支える伴走者である教師には、ICTも活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実し、子供たちの資質・能力を育成することが求められている。

参考ＨＰ：文部科学省
「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、
協働的な学びの実現～（答申）」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm

（２）「個別最適な学び」を推進していくために

「個別最適な学び」とは、児童生徒一人一人の学習進度や能力、関心等に応じた、それぞれに最適な学びのことであり、児童生徒一人一人に多様な学びの選択肢を提供することで、基盤的な学力の習得も含め、主体的に学び続けることができている状態を目指している。（図１）

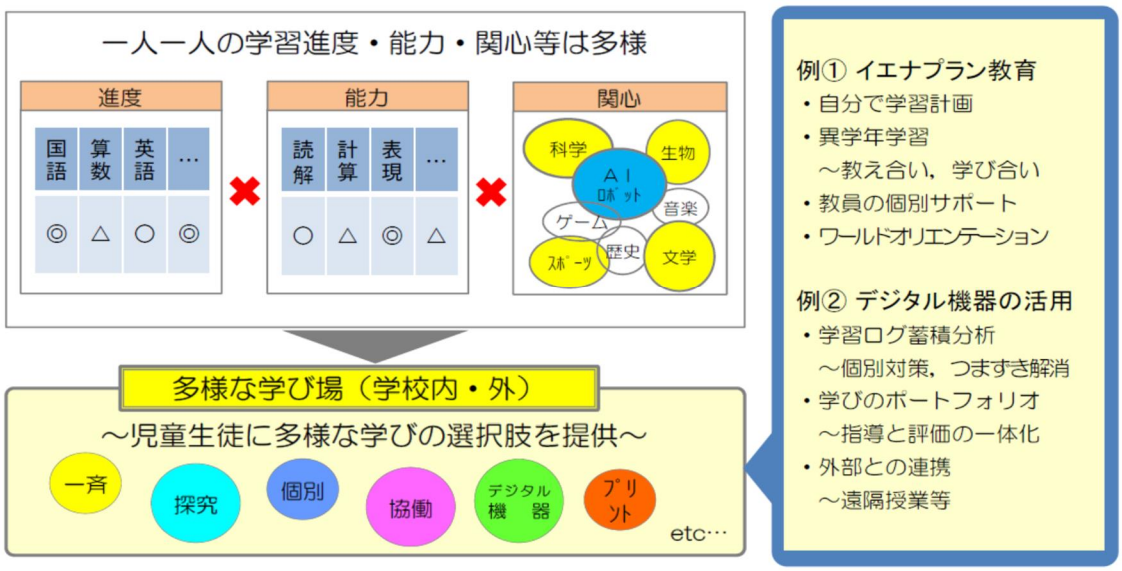


図１「個別最適な学び」の実現イメージ

「個別最適な学び」を実践していくためには、まず、全ての教職員が学習者基点に立ち、対話を通して、各学校の教育目標に基づいた目指す児童生徒の姿を具体化して共有することが必要である。さらに、各学校が目指す児童生徒の姿に向け、どのように教育活動を進めていくのかについて、「個別最適な学び」に必要な観点（学びの環境、学びの内容、学びの進め方、学びの集団、学びの評価など）

を踏まえて、これまでの一斉指導を前提とした指導形態に捉われることなく、子供たちの多様性を尊重し、柔軟に検討していくことが必要である。（図２）

多様な学びの選択肢を提供する方法としては、例えば、イエナプラン教育において見られる自分で学習計画を立てることや、デジタル機器を活用して学習ログを蓄積し、個々の児童生徒の状況を把握し、つまずきの解消を図ることなどが考えられる。

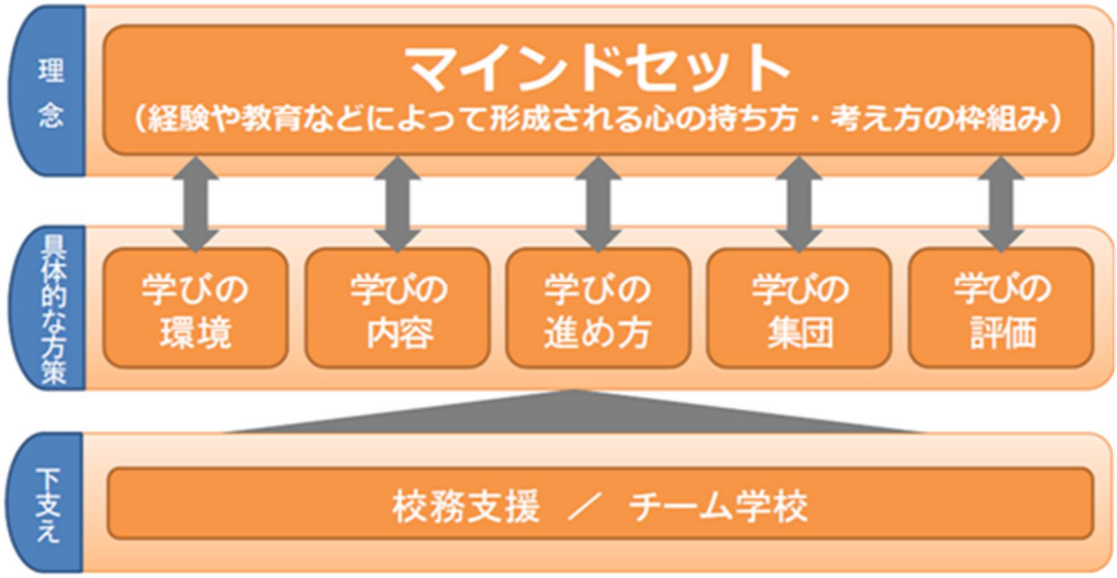


図２「個別最適な学び」に必要な観点の関係性

＜福山市立常石ともに学園（イエナプラン教育校として設置）における取組＞

福山市では、再編後の常石小学校の施設を活用し、令和４年４月にイエナプラン教育校を設置しており、第１学年から第３学年、第４学年から第６学年の３学年による異年齢集団を基本単位として教育活動を行っている。

各教科の基礎的な内容について、自分で選択したり教師から示されたりした課題に取り組む「ブロックアワー」では、子供たちは、自分で時間割を作り、一人で取り組んだり異年齢で考え合ったりしながら学んでいる。教科の学習で学んだ知識と関連付けながら協働的に学ぶ「ワールドオリエンテーション」では、子供たちが自ら生きた本物の題材から問いを見出し、探究している。異年齢の集団であることで、多様な見方・考え方、感じ方、経験や知識を交流しながら学ぶことができる。

ブロックアワーにおける児童の学び

参考ＨＰ：福山市立常石ともに学園ホームページ
http：//www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou－tsuneishi/

（３）個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けてのポイント

令和３年１月に中央教育審議会から答申された「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」において、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じて、これからの社会で求められる資質・能力の育成を図るため、誰一人取り残すことなく全ての子供たちに対して「個別最適な学び」の実現を図りつつ、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、「協働的な学び」と一体的な充実を図ることが求められている。

実際の学校における授業づくりにおいては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わさって実現されていくことが多いと考えられ、例えば授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが大切である。（図３―１）

図３―１　個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けてのポイント

本県では、資質・能力を育成するための単元（題材）を構想し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った授業を展開するために、より「深い教材研究」、「個別最適な学び」と「協働的な学び」のそれぞれの場面において、教師が個々の状況を丁寧に見取ること（「個の見取り」）、個の状況に応じた「個への支援」をしていくことを大切にしている。（図３－２）

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けてのポイント

深い教材研究

- □ 単元(題材)で育成する資質・能力を明確にしていますか。
- □ 児童生徒の深い学びを促し、教科の本質に迫る「単元を貫く問い」などを設定していますか。
- □ 児童生徒の思考の流れを想定した単元(題材)を構成していますか。
- □ 多様な個性・特性を有する児童生徒が存在することを前提として、授業において起こりうるつまずきとそれに対する支援を想定していますか。

個の見取り

- □ 児童生徒一人一人の興味・関心や能力・特性等を把握していますか。
- □ 授業において、展開や振り返りの場面で、児童生徒一人一人の学習進度や学習到達度、つまずき等を把握していますか。(形成的評価)
- □ 単元(題材)の終わりに、児童生徒一人一人が単元(題材)で育成する資質・能力を身に付けることができたか把握していますか。(総括的評価)

個への支援

- □ 児童生徒が興味・関心や能力・特性等に応じて自ら教材・学習方法・ペース等を選択できる学習環境を整えていますか。
- □ 個別最適な学びの中で孤立した学びに陥らないよう、また、協働的な学びの中で個が埋没しないよう、児童生徒一人一人に適切な指導や関わりを行っていますか。

図３－２　個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けてのポイント

参考ＨＰ：ホットライン教育ひろしま
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けてのポイント」
https://youtu.be/uKJcArqhX4g

参考ＨＰ：文部科学省
「「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』」
https://mext-curriculum-gov.note.jp/m/m3b4a6bc792d6

２　学習指導と生徒指導の一体的推進に向けて

令和４年 12 月に文部科学省から公表された生徒指導提要においては、「教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくりは、生徒指導の実践上の視点である、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成を意識した実践に他なりません。」と示されている。

本県では、深い児童生徒理解のもと、自分自身が大切にされていると感じる居心地の良い学校・学級の中で、授業においては、誰一人取り残さない視点で個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、全ての生徒が充実感や成就感を味わえる授業づくりを行うことを大切にしている。

３　具体的な取組事例

（１）「個別最適な学び」に関する実証研究指定校等における取組

本県では、令和２年度から２年間、県内４地域で実施した「個別最適な学び」に関する実証研究指定校及び県内で「個別最適な学び」に取り組んでいる実践校の取組の概要を県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」において紹介している。実証研究指定校においては、学校教育目標の実現に向け、多様な学びの選択肢の提供と自己決定場面の設定を意識した教育活動を推進しており、結果児童生徒の 92%に資質能力の伸びが見られるなどの教育効果が得られている。

なお、実践事例や教育効果等の詳細について、下記リンク先ページ「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」（図４－１～６）にて紹介しているので、ぜひ御覧いただきたい。

参考ＨＰ：ホットライン教育ひろしま
「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku17/kobetu-teian.html

個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案
～Society5.0を見据えた「学びの変革」のアップデート～

本県では、全ての子供たちの「主体的な学び」の実現に向けて、個別最適な学びに関する調査研究を進め、令和２年３月に「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に係る提案」として整理するとともに、同年４月から、県内４地域において「個別最適な学びに関する実証研究」に取り組んできました。（２か年事業）

個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案（Ｒ２年３月）

実証研究及び教育効果の検証結果の概要（Ｒ３年３月）

【具体的な実践事例】

学校名	取組概要	実践事例
廿日市市立宮園小学校	単元内自由進度学習	実践事例報告（１）
江田島市立三高小学校	イエナプランを参考にした自立・協働学習	実践事例報告（２）
三次市立みらさか学園	単元別プロジェクト学習	実践事例報告（３）
福山市立福山中学校	興味・関心に応じたＭｙ探究	実践事例報告（４）

図４－１個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案

個別最適な学びに関する実証研究を振り返っての気付き

Goal 全ての児童生徒の「主体的な学び」の実現

手法 子供の実態に応じた多様な“選択肢”と“自己決定”を意識した教育活動

Point 1 教職員の大切にしたい心の持ち方・考え方
（次のようなマインドセットを意識）

- 学びの主体は子供（⇒ 支え励ましそう）
- 子供は力を持っている（⇒ 委ねよう）
- 子供には多様性がある（⇒ 尊重しよう）

Point 2 子供の実態（学習進度・能力・関心等）に応じた多様な選択肢と自己決定場面を設定

実証研究校での検証結果（教育効果）

- ◆ 子供たちの資質・能力が向上した！
  ～コンピテンシーが伸びた児童生徒割合：約92%
- ◆ 自己決定すれば実行力・自己効力が伸びた！
  ～決断力と実行力の伸びの相関：約67%
  ～決断力と自己効力の伸びの相関：約75%
- ◆ 子供たちの主体性・理解度・満足度が高かった！
  ～各アンケートでの肯定的回答
  主体性：約94%，理解度：約91%，満足度：約93%

実証研究校での目指す姿

子供
- ■ 自分から進んで学習しているか？
  ・自ら学習方法や内容を選択し，自分のペースで学んでいるか？
  ・分からない事を学び合いの中で自分たちで解決しているか？
- ■ 自分の学びを本気で振り返っているか？

教師
- ◆ 子供の実態を踏まえた教材研究ができているか？
- ◆ 一人一人の学びを見取っているか？
- ◆ 個に応じた支援ができているか？

図４－２「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

【令和２年度の取組】実証研究指定校　実践事例報告

廿日市市立宮園小学校
【単元内自由進度学習】

江田島市立三高小学校
【イエナプランを参考にした自立・協働学習】

三次市立みらさか学園
【単元別プロジェクト学習】

福山市立福山中学校
【興味・関心に応じたＭＹ探究】

図４－３「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

【令和３年度の取組】実証研究指定校　実践事例動画

廿日市市立宮園小学校
【自由進度学習】

- ３年 算数・理科
- ５年 算数・社会
- ４年 算数
- ６年 算数・理科

廿日市市立金剛寺小学校
【ICT 活用による、児童が学び合い、探究し続ける授業】

- ５年 体育
- ６年 国語・算数

【令和３年度の取組】実証研究指定校　実践事例動画

江田島市立三高小学校

【イエナプランを参考にした自立・協働学習】

３～６年
総合

福山市立福山中学校

【興味・関心に応じたＭＹ探究】

１～３年
総合

三次市立みらさか学園

【単元別プロジェクト学習】

小学６年
国語

中学１年
技術

中学２年
技術

図４－４「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

【令和４年度の取組】「個別最適な学び」に取り組む実践校　実践事例動画

廿日市市立金剛寺小学校

【マイプラン学習】

５年
算数

三次市立みらさか学園

【単元別プロジェクト学習】

小学６年　中学２年
社会

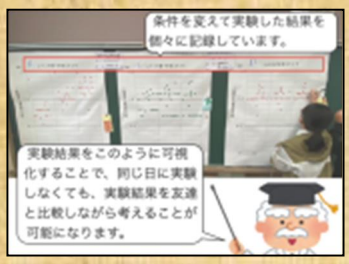
廿日市市立宮園小学校

【自由進度学習】

自由進度学習Ｑ＆Ａ

図４－５「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

自由進度学習に関してよくある質問について解説しています！



自由進度学習に関してよくある質問について、廿日市市立宮園小学校の実践事例動画で解説しています。実践してみたいがやり方が分からない、不安があるという方はぜひ御覧ください。

【このような質問に答えています】

- 自由進度学習で進めていて、本当に学力は付くのでしょうか？
- 時間内に終わらない子が出てくるのではないですか？
- 一人一人の学びをどのように見取るのでしょうか？
- 自由進度学習は、低学年でもできるのでしょうか？

【令和５年度の取組】「個別最適な学び」に取り組む実践校　実践事例動画

廿日市市立地御前小学校

【自由進度学習】

１年
算数

１年
算数・国語

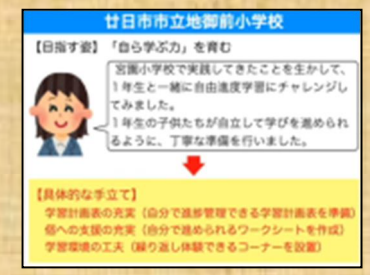
世羅町立世羅中学校

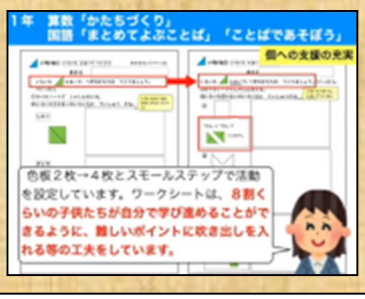
【単元内自由進度学習】

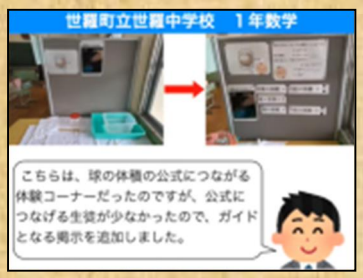
１年
数学

図４－６「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

小学校第１学年、中学校第１学年の実践を紹介しています！







小学校第１学年、中学校第１学年の実践を動画でまとめています。「学習計画表」「個への支援」「学習環境」など、取組を充実させるためのポイントについて、実践をもとに解説しています。

「実践してみたが上手くいかない」「どのようなことに注意して実践すればいいの？」といった思いをお持ちの方は、ぜひ御覧ください。

（２）個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組

本県では、県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」において、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った実践を紹介している。

紹介している学校では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて「深い教材研究」「個の見取り」「個への支援」の三つのポイントを意識した誰一人取り残さないための授業づくりを行っている。

紹介動画では、単元や１単位時間の中で、児童生徒が「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還しながら主体的に学ぶ姿を紹介しているので、ぜひ御覧いただきたい。（図５）

【令和６年度の取組】個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた実践事例

図５　個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた実践事例

廿日市市立宮内小学校
【特別支援教育の考え方を生かした授業】
宮内小学校では、特別支援教育の考え方を通常の学級にも生かすという考え方のもと、個のつまずきを想定し、その要因や背景等から多様な選択肢を用意し、児童が選択しながら学習を進めている。

廿日市市立金剛寺小学校
【マイプラン学習】
金剛寺小学校では、マイプラン学習において、単元の問いやテーマを児童と共有後、児童が個々で解決に向けた学習方法等を選択し、デジタル学習基盤を活用しながら学習を進めている。

江田島市立三高小学校
【異学年集団によるワールドオリエンテーション】
三高小学校では、総合的な学習の時間において、個々が興味関心を抱いた課題別に第３学年から第６学年までによる異学年の縦割りグループをつくり、個々やグループが探究的な思考過程を大切にしながら学習を進めている。

熊野町立熊野第三小学校
【ポジティブ行動支援の考え方を生かした授業】
熊野第三小学校では、本時の目標を具体的な行動で設定し、分かりやすい「インプット」、多様な「アウトプット」、教師や児童同士の肯定的な「フィードバック」の三つが循環することを大事にし、終末には、児童が確認問題等により自分の学びを振り返りながら学習を進めている。

尾道市立高西中学校【自由進度学習】
高西中学校では、自由進度学習において、自立した学習者を育成するために、生徒が学びの羅針盤（学習計画表）を基に自分で作成した学習計画に沿って、学習プリント、学習コーナーなどの多様な選択肢から自分にあった学び方を選択・決定して学習を進めている。